萬葉集略解

十二下

柳田文庫
文庫11
A 104
18

朝日指春日能小野爾置露乃可消吾身惜雲無

あさひさすはるのゝのゝにおくつゆのけぬべきわれのみをしくもなし

露霜乃消安我身雖老又若反君乎思將待

つゆしものけやすきわがみおいぬれどまたをわかへりきみをしまてむ

待君常庭耳居者打靡五黒髪爾霜曽置爾家類

きみまつとにはのゝをれば打なびくわがくろかみに霜ぞおきける

或本歌尾句云白細之衣手爾露曽置爾家留

しらたへの衣手につゆぞおきにける

朝霜乃可消耳也時無二思將度氣之緒爾為而

柳田泉文庫
48 10656

あさ〻のげぬぐくのみやとまさるのみおもひわくらんいきのをまてて

いつとゝ付てうゝ故郷のいまゝ月日を待まさらんあうゝ咲くも

左佐浪之波越安暫仁落小雨間文置而吾不念國

きさらぎのみのなみこしてあぜよふるこさあひびもおきてわがをもふく

あぜとハ田ごとの畦をせくことをいひてかゝるまうふ波のよるおもの降て此

の文の無きことあしびきなきあ序こそみよる面雲にのきどれ波乃をとよ

りる新こと面のくれき宮ちハ安暫仁ハ弘法ゝ為べしとの下ハ考べし、

まハ畦を塞てゝるとかくいてゝ

神左備而巖爾生松根之君心者忘不得毛

かむさびていはをわよおねるまつのねのきみのこゝろハわすれかねつも

神さびて古く久しきといはん神のゝ古るる松の根のゆく久しく孫れどもむ

らつくとゝ久しきものハ長ゝ久しとゝいつゝ久きまる君のきくの深松

なるもとよみそのはのことづけこゝる高ゝをまぶ久しく久のかきつねゝ松

のゝ長きまるふなそらくいつとゝ

御猟為雁羽之小野之櫟柴之奈禮波不益憩往益

乃ゝあるかゝびのをゝのゝ小野なれまきゝ櫟柴ゝ奈禮ゝ益憩往益

長雨の降ゝて猟場ゝ比ゝ長まあしびゝ柴ゝ心ゝ憩ゝ往ゝ益ゝ

上ハかなれといさん寄ゝ

櫻麻之麻原乃下草早生者妹之下紐不解有申尾

さくらあさのをゝの麻原ゝ下草ゝ早生者ゝ妹ゝ紐ゝ解ゝ有ゝ申ゝ尾ゝ

上二句ハ東十一ハいて苗したもつものゝ下草ゝ麻ゝ原ゝ麻ゝ原ゝ

ゝくゝ麻ゝ原ゝ麻ゝ原ゝ東十一ハ麻原ゝ風のいやちやまろとゝ麻ゝ原ゝ

あさぎりんとゝ麻ゝ原ゝ麻ゝ原ゝ遠ゝ遠ゝ麻ゝ原ゝ麻ゝ原ゝ

ゝとゝ麻ゝ原ゝ麻ゝ原ゝ生者ハ草の母ゝ麻ゝ原ゝ麻ゝ原ゝ

なをしばし問べしと思ひいれさまれどこゝろのあるにかきはとゝろんまうこゝ花ぐし

春日野爾浅茅標結斷米也登五只念人者彌遠長爾

かすがのゝあさぢをしめゆひたてそめやしわがこゝろはいやとほながに

傳曰しめゆひとは茅をまねくしるしにまきたてゝ人をとゝめ去ることをいふ

茅をまねくしるしにまきたてゝ人をとゝめ去ることをいふ

足檜之山菅根乃懃吾渡曽憑流君之光儀乎

あしびきのやますがのねのねもごろわがわたりそめるきみがすがたを

上ハねもごろといふこゝろの也捨の下木と紙せるこゝろあるもかくこゝろあれば

とゝもとは一こゝろを用ひるの

或本歌曰吾念人乎將見因毛我母

垣津旗開澤生菅根之絶跡也君之不所見頃者

かきつばたさきさはにおるすがのねのたゆるやきみがをみぬこのごろ

一二の句よりいづる意なり山茅ハ山菅ハ根しなどで水の茅ハ根をいつるハ本十二ヶ

湖ハ接近るもげもあびもてとゝるのこゝろなり

中もれば此菅根も山菅ハ水ゝ二の句開野生とゝやりうんとゝるはそれ也上ハ

殺といふん序の〻

足檜木之山菅根之懃不止念者於妹將相可聞

あしびきのやますがのねのねもごろやまずおもへばいもあはんかも

上ハねもごいふん序の〻

相不念有物乎鴨菅根乃懃懇五只念有良武

あひおもぼあるものをかもすがのねのねもごろよわがこゝろへるゝ

此ハおもひなるものとなるこゝろ我ハ深く思ふ人をこゝろいづるこゝ

山菅之不止而公乎念可母吾心神之頃者名寸

やますがのやまずてきみをおもへかもわがこゝろどのこのころハなきさ

[illegible]

妹門去過不得而草結風吹解勿又將顧

一云直相麻氏爾

[illegible]

淺茅原茅生丹足蹈意具美吾忘兒等之家當見津

あさぢはらちぶふあふみてろぐみわがもふこころがいへあるべるみつ

一云妹之家當見津

[illegible]

[illegible]

内日刺宮庭有跡鴨頭草乃移情吾思名國

うちひさすみやゐあれどつきくさのうつごころはわがもはなくふ

[illegible]

百爾千爾人者雖言月草之移情吾將持八方

ももちふたりひとはいへつきくさのうつごころをわがもちかやも

[illegible]

萱草吾紐爾著時常無念度者生跡文奈思

わすれぐさわがひもつけときとなくおもひけるかはいけるとなし

[illegible]

五更之目不醉草跡此乎谷見乍座而吾止偲為

あのときのめさまぐさとこれをぶみつゝまして　これと志ぬだせ

めはまぐさハ草の名ヨハあゝで　ゆそてあれ　ねるもの　とさしていろくさ

といふる詞よりくゝ草とよあるゝ　ごとに交ゝ　奏神立新羅の睡草却睡

草のるとゝ　ハ　ハ　睡草　そのるとハ　笑

萱草垣毛繁森雖殖有鬼之志許草猶戀爾家利

わすれぐさかきもしげみ　ふるとも　志このゝ　なぐさ　しるもの

志ゝ　ハ草のめ　ぐさ　鬼ハ醜　同　て　ハ悪　ゝ　罵る　ことゝ　改す　也

志許草ハ一名のみあゝで　立　とゝ　ゝ　萱草　ゝ　ゝ　ゝれど

わすれぬれバ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

下　但　ゝ　ゝ　ゝれど　鬼　ゝ　ゝ　ゝ　言　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　同じ

浅茅原小野爾標結空言毛將相令聞戀之名種爾

あさぢはらこのゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

一二の句　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

或本歌曰将来知志君矣志将待又見柿本朝臣人麻呂

歌集然落句少異耳

皆人之笠雨縫云有間菅在而後爾毛相等曽念

みなひとのかさぬゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

第十一　大男の　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

上ハ序の　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

三吉野之蜻乃小野爾刈草之念亂而宿夜四曽多

みよしぬのあさつのとぬふかるるのやのおもひみだれてぬるよしぞなき

よハ乱るといへる序のゝあさつのとぬるとをかけてよめる歟

ちはやぶるかやハ一名のかるかやなり飛原菅料のかるとをもてかやといふ

妹待跡三笠乃山之山菅之不止八将戀命不死者

いもまつとみかさのやまのやますげのやまずやこひんいのちたもたずハ

初句の妹待跡といふよりハ山やらひんと句あれどもしばらくなるべし

待跡ハ所服のそのの誤れるなるべし妹のきるとやかりんきうべ初句ハ

枕詞なるべし二三の句ハやまずゝいへる序のゝ

谷迫峯邊延有玉葛今蔓之有者年二不来友

たにせゞみをねべるたまかづらはへてあらばとしにこずとも

年十一月十四日ほ榜の所なるべしはへてあらばとしにこずとも

俗ぞあらばまたゝとしのたえずはべらばとせまりとも

許八訂ノ誤

ハ思ふぞんとく今蔓とあるハ代のそなるべくかろうもたハせを行てまく

とうとぞすべし

一云石葛（イハツナ）今蔓之有者　いはづるハ和名抄絡石一名領石豆太ゝいへる

なり大ゝ奈ハ毋ゝ

水茎之岡乃田葛葉緒吹變面知兒等之不見比鴨

みづくきのをかのたくずハをのくがへしおもてしるこらがみえざるかも

みづくきのをハ枕詞なるべし牡鹿ハ巻の廿の歌にみづくきの

岡ゝ又ゆゝとかけて面といひつゝ知るるるゝしい歟

此てげのようにとり

赤駒之射去羽許真田葛原何傳言直將吉

あかごまのいゆきはばうるまくずはらなにつてごとたゞすべけむ

いハ及後巻三白きもゝ行ゆきたゞうまゝ、るの誤のまゝにてとり、

許ハ計の借字、天智紀に十年十二月崩まして後、童謡四首の中に此哉
て、奈尓能都底挙騰多拖尼之曳雞武とあり、つゞきてハ雄略紀流言
飛言の字を用ひたり、此童謡の流言にハ何の事ぞとて問と挙て、
即今に纔くとも、末ハ吉ならんとかく、吉野の前の太子の、ことてあれ
ますのちんとなりて、さて此におもひの深ゆる一つの借字にして、かくそ
今ハ今しかるべし、さる故よさしかもまおもひまではなし、葛原と共
事ハ必ず緒りくえりやりぬをいくはじめことごとくはなはだしく人信のこ
りふとたとへ、さらく何ぞのちかきぞその人信ぞや、たゞちゆまでなんてぞ
よのしえと母のゆるさん、よきことえるさしていへの古人之

木綿疊田上山之狭名葛在去之毛不今有十方
ゆふたゝみたなかみやまのさなかづらありさりてしもいまならずとも
ゆふたゝミ 枕詞、田上山 巻一に出、さなかづらハ、和名抄五味 作祢加豆良 とあるにて、宣長

云今ハ今の借之今にあらずし、立かへく後をも違ハんとおもひてといひりなハ
うつゝの絶せざるわざとかく、立さてといはん序とせり

丹波道之大江乃山之眞玉葛絶牟乃心我不思
たにはぢのおほえのやまのさなかづらたえむのこゝろわがおもはなくに
大江山 桑田郡にあり、天武紀八年十一月初置関於龍田山大江山とあるに、
そも十四巻でつゞき等をひける故つゞりして下今ほどなくて、たえん乃こ
いはる乃の紐よ、たえんとおもひていへることあれ又ハ序のこ

大埼之有礒乃渡延久受乃往方無哉戀渡南
おほさきのありそのわたりはふくずのゆくへもなくやこひわたりなん
出雲風土記島根郡大崎濱とあれど、是云大崎の神小濱とよめる
ハ紀伊國の崎なるべし、此ありそそてともあるなるべし、はふくずの
麁き荒さる葛のなかまくに延てゆく行方の限りもしれぬことよたとへたり

るう定なる此ニの旨ぬて母のしまん、さきろくすより経りくるうきるべしと云
りさとすべし

木綿裹一云畳 白月山之佐奈葛後毛必将相等曽念

ゆふたゝみたなかみやまのさなかつらのちもかならずあはんとぞおもふ

裹ハ一本畳とあるをよしとす、ゆふたゝみ枕詞、田上を白とかくはまちがへるより

としりて、田上山ハ近江栗太郡

或本詞曰 将絶跡妹乎吾念莫久爾

唐棣花色之移安情有者年乎曽寸經事者不絶而

はねずいろのうつろひやすきこゝろあればとしをぞきふることはたえずて

如此為而曽人之死云藤浪乃直一目耳見之人故爾

かくしてぞひとのしぬといふふぢなみのたゞひとめのみみしひとゆゑに

新よ次ていふ也や

住吉之敷津之浦乃名告藻之名者告而之乎不相毛恠

すみのえのしきつのうらのなのりそのなはのりてしをあはなくもあやし

三佐呉集荒礒爾生流勿謂藻乃吉名者不告父母者知鞆

みさごゐるありそにおふるなのりそのよしなはのらじおやはしるとも

みぎて既むとハのまいちん房のこ、来こまてであるいをまふ年るちのりこの
名君若志豆余釈ハ志ゐとしとゑて今回まて之名なるしてよとゑて、ろく
ほうさざのえ、こハ誤れるなるべし、今ハ今の誤なるべし
すしふや、このうたハ既ち女の名をよみせしとハそハまあを年めく、ゐきれ
を去(ふり)おへよし文母のゆるくさざむもとしりえ

浪之共靡玉藻乃片念爾吾念人之言乃繁家口
なみのむたなびくたまものかたもひをわがもふひとのことのしげく
ほとしめす、わもの隠よをほうてるとふく、さ思ひこいひつげする

海若之奥津玉藻之靡将寝早来座君待者苦毛
わたつみのおきつたまものなびきねんはやきませきみまてばくるしも
あきのめてこいすとてあてり

海若之奥爾生有縄乗乃名者曽不告戀者雖死

わたつみのおきなるなはのりのなはかつてのらじこひはしぬとも
なはのりは既にいふよハ序なり、父母に我の名を不告していふとて弥くして
忘死ぬとも程若し女のよめる之様めくえとあふさなるを思かなるべし、
巻十一にこゞせてこの歌をむきいるとも命は様のしれざるなるかつてハ
巻十本高くハ曽木不殖(カツテキウヱジ)とし見て

玉緒乎片緒爾搓而緒乎弱彌亂時爾不戀有目八方
たまのをゝかたをによりてをゝよはみみだるゝときにこひざらめやも
巻十にもふえるこつあひよわるゝをよあるゆくいあるて、たゞによりそと
て、まゆ糸の弱きを野分もてゆくよろしくとかくさるよるていいつゝ、
結ぶてむの乱れをといへんとて、年糸を設けすりさく弦のきれ絶え、
むの乱れおもとあるを中をたちあるしまるゝく、かゝるすを忘ざらめやりとえ

君爾不相久成宿玉緒之長命之惜雲無

きみにあはでひさしくなりぬたまのをのながきいのちのをしけくもなし

なかけれバをしきことなしとなり

戀事益今者玉緒之絶而亂而可死所念

こふることまされバいまハたまのをのたえてみだれてしぬべくおもほゆ

こふることのいとゞまさりゆけバいまハたまのをのたえてみだれてしぬべくおもほゆといへり或人云車ハ布の

數の誤なるべし この卷十二にひとくにハこふるがさきのあとを卷二十

こひしくのおもへるこれハと書といへりまさるべし

海處女潜取云忘貝代二毛不忘妹之光儀者

あまをとめかづきとるちふわすれがひよにもわすれじいものすがたは

よにしハ世の中なるとちんりしぬるのさきまでわすれじといふなり

まつくよにといふ語ハ先なる准じて知べし

朝影爾吾身者成奴玉蜻髣髴所見而往之兒故爾

許ハ計ノ誤ㇾ

あさかげにわがみハなりぬかぎろひのほのかにみえていにしこゆゑに

かぎろひの枕詞ハ卷十一二丁面の句玉垣入風所見と語りて入りし玉垣ハ玉蜻の誤なくしてもかぎろひのほのかにみえてと訓べきことハ同じのちなるものを

十一にいへり

中中二人跡不在者桑子爾毛成益物乎玉之緒許

なかなかにひとゝあらずハくはこにもならましものをたまのをばかり

卷三 中々に人とあらずハ酒壺になりてしがも酒にしみなんといへるにひとしく人と

まれてあらんよりハといふにかいこハ雌雄をならされぬものなれバ彼になりなん物をと

思ひ、日三これが命の緒も人のごとき後の事なきものなれバ何か思ハんといふこと

ことをいふ語にハ玉の緒ハと云へて一の語とつゞけり 許ハ計の誤なるべし

眞菅吉宗我乃河原爾鳴千鳥間無吾背子吾戀者

ますげよしそがのかはらになくちどりまなしわがせこわがこふらくハ

楢ノ猶二誤

志ものより榜、神名帳大和国高市郡宗我坐宗我都比古神社といひと、
し孫名里の西ふる宗我村ありてそこのほとりて別格限りのまことぞ、
上八首そをいさん序のこ

戀衣著揶乃山爾鳴鳥之間無時無吾戀良苦者

こひごろもきちゝのやまになくとりのまなくときなるわがこふらくは

戀ハ舊の字のまゝより誤れるまく、篤云ふるまゝ〜かけるまゝ
同じ、冠辭考ふ委しくさくたるのまよ考るといひ名るべきなり上ハ
序のこ

遠津人獵道之池爾住鳥之立毛居毛君乎之曽念

とつひとかりぢのいけにすとりのたちもゐもきみをしぞおもふ

遠津人枕詞、姓氏録ふ雄略天皇御世獻加里乃郡仍賜姓輕部君
とゝ、集中ふ此の路とよれいり因和ニの上ハ序のこ

葦邊往鴨之羽音之聲耳聞管本名戀渡鴨

あしべゆくかものはおとのこゑきいてゝもしらでこいわたるかも

上ハ如ゝ上ハ序のこ

鴨尚毛已之妻共求食為而所遺間爾戀云物乎

かもすらもおのがつまともあさりしておくるほどにこふといふものを

遠ハ後ゝ也三句の例ハ鴨ふ引ハ鴨ふ寄ねちくみこ
よりて

白檀弓太乃細江之菅鳥乃妹爾戀哉寢宿金鶴

まゆみたのほそえのすがどりのいもにこふらんやねねつる

志ゝまち枕詞、大和葛城郡ふも、弓ふ材ふ用いて、
ほそえの大沼ふ、ものこと三句の例の入江ふ、
し斗月の入江ふ、ゆゝ、又考十四末澤

勅知国とうたふこの中に、比多我多紙いそのわのもとにもとけひと
ごとに同じ、なれ、昔をもとにしてもとにしれぬ、さくもがるのめくらの
と給ふか、くいねられざるハ、ふれて、いとのちるかぎりしかりよ、
又菅ハ管の字なれ、多年つ多ふるとなるハいそれきれ、ものハ
小竹之上雨来居而鳴鳥目乎安見人妻姫爾吾恋二来
さゝのくへまきうゑてなくとりめをやすみひとづまゆゑにわれこひくる
竹多のむれとかくらん、あぢさゐ、ひとづまゆゑにこひくるも、さゝのふし
いつるも、めハ眼のをちるを、冠辞考を見て知べし、他書もかゝれ
をめやもくうるりくれバ多ハ、ふるもくもやもきさハ見安をふ、
又考くきのくくく、考十あくくくおくるとをぐられバ他づま
なる物をあぐべし、姫ハ故のこの信くもぐくれど、ありて此をを見し
くもあれバ物考べし

鶏ヲ鵜ニ誤

物念常不宿起有旦開者和備氏鳴成鶏左倍
その力をいねぬ、おきたるあさけハわびてなくなるあけをつどもさへ
古事記応神津に理が祈使那久、考十一日のせこを知こひとれバ
やものをく、なりいくくれ、ふりくいるひ。
朝鳥早勿鳴吾背子之旦開之容儀見者悲毛
あさがらすはやくなきそわがせこのあさけのをのくみれバのもも
うるハ愛まそ、結るそ、ふくはいつくくハ容儀のをくれて、
別の物くそ
拒槌越雨麥咋駒之雖詈猶寝久思不勝烏
うまづちこゆあめむぎくはゆこまのゝゆれどなかくくくおもひかねつも
うまづちハ馬塞の男この小まをとりて拒槌のをとをとり、考十四宇麻
勢胡之くく、又同考久敝胡之ふ武蔡伎武古馬乃くて、三日よりのハ

是ちかきことくに、その文勢ハ新を侍るねとやむく／＼べてくれも同じくおもと

似つ通ふよしくされバくしくべくも洲べし、且四ま欲の越る馬柵(ウマセ)の

こともよめり、和名抄籬(末加岐一云末世)とも有、田家まくる庭をさ麦

を保ちを、言ふハ柵でし牛馬をのぞく所を置てかまきぬべきく父母を

罵るをさとふ、ちすりのしハ始絆、鳥ハ馬の侍く

左檜隈檜隈河爾駐馬馬爾水令飲吾外将見

さひのくまひのくまがはにこまとめてこまにみづのへわれよそにみん

たハまる通へる發語なく用ひことをきねつるえ、ひのくまハ高市

郡なる今も此地ありく川もありとぞ、こまハ子なるをあしらひて、出し十四な

古馬古麻なとかく老若なかくしてまりいふ又うくまと洲べし、

たそ集大豆の不比とのなさしのくますて語かてまとぞそこのかくすり

於能禮故所詈而居者驄馬之面高夫駄爾乗而應来哉

おのれゆゑのらえてをれバあをこまのおもたかぶちにのりてくべしや

和名抄驄馬青馬也、黄驄馬葦花毛馬也といふ、青白雑毛馬也とす、翁云

夫ハ父の字の誤なるべし、ちかし妹許とへバ是篇数といへるごとく考ふるを

よろひ、るのるハしさる、来るの所あげていさみ来りとされなる父母のせめし

て居る男なれバるの所も吾行を、くるく挙て来まるるハ添じうられて

こそ有しハ見て女のまなくこのえといへれき、室井もたの説に依て解かハ許うる

紀皇女ホ化まくる安まの伊与国ヲ居つるてこそへよく／＼まハされさらえ

上二るハ妾(キミ)ゆゑに公の始まあひて伊与へ降居ますなれバ、降るに当て、

面高くほこりて来の御許へ降を来るべきやうもあらじといふことを云来へ

しやハ行べしやはのことば、行を来といへる例多し、面高にるの所とあだて

行まいひうけく自らの面高くほこりつれて行ことえ夫許ハ雑説の若もと

居たる歌なく信ま以て小荷駄くとよて按ずべし

右一首平羣文屋朝臣益人傳云昔聞紀皇女竊嫁高安王被責之時御作此歌但高安王左降任之伊與國守也

紫草乎草蹈別別伏鹿之野者殊異爲而心者同

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

不想乎想常云者真鳥住卯名手乃杜之神思將御知

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

問答歌

紫者灰指物曾海石榴市之八十街爾相兒哉誰

むらさきぶさひさまのぞ つぞいものやそのちまたふ あるこやたれ

第八海石榴の戸のあくとさして 遠く絶るまよりて つぞ京しいさん京

くせも 桂市ハよる出 月 大和絵 よ中 ハいらき人 く市よ 行て 名ぬ

ぶぞ くくらるる 中ハとハいつとりて 武 辺 死 よ 弘 計 宮 る 命 海石

榴市の歌垣 よ立まして 影媛 鮪臣 るぞ こひ さ こ あつ あれば 上つ代

よりのなこ こ ちるぞ こ さて 貝よつきる女の名を問 よ 言 こ こ して 弘

し 巻 と せ こ す 彼 紀の 清 路 巻 と こ る 会 せ く こ こ る

足千根乃母之召名乎雖白路行人乎孰跡知而可

たらちねの こ ごよぶ を まを きあど みちゆき びと と こ れと 知 て この

女 へ 手 む ま の 乃 と ハ 母 又 の る つ ぞ ぞ 母 を 巻 こ ハ 女 の る れ ば ど と

ま さ 女 の 乃 を 代 人 る ま を 尋 る ハ 後 く 上 り 、 弱 の い て く 比 路 言

の 序 の こ ひ ま の こ や び て ま り ろ く 巻 ま の ま こ る る ま の ま こ ふ い て 、

あそれる 旦 二 そ こ こ 調 の こ る こ こ き る ぞ 飛 る 系 本 宮 の 路 の 法 の 法 の こ ん

この ハ か こ こ る 貴 べ き る れ こ そ れ る き

右二首

不相然将有玉梓之使乎谷毛待八金手六

あそ ま く ハ 生 て の も あ ま る ん た ま づ き の つ こ ひ を ぞ ふ も ま ち や か ね て ん

待 る て 逢 ぬ ハ さ し る べ き る る ぞ く ハ こ る れ ば 使 を ぞ よ か く 行 る る 中

こ と き ぞ こ こ い こ こ

将相者千遍雖念蟻通人眼乎多戀乍衣居

あ り ん と い ち こ び 世 り へ ど あ ぞ が よ ひ と あ を ま ま こ ひ て ぞ を る

あ り か よ ハ 多 る よ 生 て 行 る こ あ よ さ の 人 と い て

右二首

人目多直不相而蓋雲吾戀死者誰名将有裳

ひとあおりみだれあはぎてなぐさくもわがこひまさるべたがなふるあもあ
ゝとはのんべゝなる里人としいつるぐねようえやゝこひてとをん
たゞなをつめやとしいひくわゞをたるバ誰々のえん、まぐろこそ
をゝをゝとくんとたゞまもを

相見欲為者徒君毛吾曽益而伊布可思美為也

あひみまくほりくもれいきみよりしわれぞまさりていづのゝみたる
いづのゝはおがつるさゝいづをゝとゝいてゆゞ後よハ勝て銘バ
きるゝとも也ハ徒よりくくるゝ、宮ぢち為の下事の字紙ゝの、
ほりもるゝとハとりぐゝといつて

右二首

空蟬之人目繁者夜干玉之夜夢乎次而所見欲

うつせみのひとめしげくハぬばたまのよるのいめをつぎてみえこそ

空蟬之人目乎繁不相而年之経者生跡毛奈思

うつせみのひとめをしげみあハずてとしのへぬれバいけるともなし

空蟬之人目繁者夜干玉之夜夢乎次而所見欲

うつせみのひとめしげくハぬばたまのよるのいめをつぎてみえこそ

いめあとのをとハるまをこゝり、欲ハ先ゝるふゆゞくこそ河べゝ下る

ひとゝよとおちぐ者ゝ所見欲とゝてみえこそ河べゝ、集ゆ

いでゝ弱ゝ去欲とゝをさいだゝるまをやゝゆきこせとゝへる

即古河ゝ

右二首

慰懃憶吾妹乎人言之繁爾因而不通比日可聞

ねもころおもふわぎもをひとごとのしげきゝよりてよどむころかも

人言之繁思有者君毛吾毛将絶常云而相之物鴨

ひとごとのしげくあらバきみもわれもたえんといひてあひしものゝ

ひとごとのしげくあらバきみもわれもたえんとかねていひしものゝハさハあらぬを

[illegible]

右二首

為便毛無片戀乎為登比日爾吾可死者夢所見哉

[illegible]

夢見而衣乎取服裝束間爾妹之使曽先爾来

[illegible]

[illegible]

右二首

在有而後毛将相登言耳乎堅要管相者無爾

[illegible]

[illegible]

極而吾毛相登思友人之言社繁君爾有

[illegible]

右二首

氣緒爾言氣築之妹尚乎人妻有跡聞者悲毛

[illegible]

我故爾痛勿和備曽後遂不相登要之言毛不有爾

わがゆゑ子ふてくるなとびそのちつひふあげといひことものらちなくふ
いまぶ宮のふ仏事〜茶わるあるぬほどみて女かるこんゆうぬるべー

右二首

門立而戸毛閉而有乎何處從鹿妹之入来而夢所見鶴

かどたてとそとぢるをいづくゆぶいものいりきていねみえつる

門こそ八門因てん、為八門を遮主ゐといれつれど主のつぐ不なつ〜ぢや、
戸も閉こそ八かもうひ〜てどづるとりえ〜さいぢ〜あつまるかもぐひ
そとぢ〜もあ〜ばこそといてう

門立而戸者雖闇盜人之穿穴從入而所見年

かどたてとやせれどもぬすびとの穴ほるあるゆいりてみえんん

字鏡ゴ圖合也閉也門乃止比良、和名抄倫児奴須比止、竊盜美曽加奴須比止

氣の字仮〜なるべ〜

右二首

從明日者戀乍將在今夕彈速初夜從緩解我妹

あすよりハこひつゝあらんこよひだにはやくよひよりとけわがせ

抜字ん為也ちるべ〜上のこよひ一夜のすぐ下のよひ字のみく初夜といふ
弾ハ字とかうしるうるえ、後一本緩ゴ仮、又一本縷ゴ仮、後ハゆるちこく
ときとそてかるこの

今更將寢哉我背子荒田麻之全夜毛不落夢所見欲

いまさらにねめやわがせこあらたまのひとよもおちずいめみえこそ

此一首ハ二年の冬の条を引まはしとなるうゝ、夜中と来て
文ならくれんもかひまふ仕なりう一寄海さず美さこそ むるとこそ思ふ三の見
えよて彩よこそあるむとを多年のるとそてようるか拙詞と直ちにそるとせる例ゴ

右二首

吾勢子之使乎待跡笠不著出乍曽見之雨零爾
わがせこがつかひをまつとかさもきずいでつゝぞみしあめのふらくに
此哥巻十一に載たり彼ハ只雨の部にとらるハ同じ歌なれバ也
無心雨爾毛有鹿人目守之妹爾今日谷相乎
こゝろなきあめにもあるかひとめもるともしきいもにけふだにあはんを
人目の謀を窺ひてたまくあふ妹を云年官本乎に作るとよし

右二首

直獨宿杼宿不得而白細袖乎笠爾著沾乍曽来
たゞひとりぬれどねかねてしろたへのそでをかさにきぬれつゝぞこし
雨毛零夜毛更深利今更君将行哉紐解設名
あめもふりよもふけにけりいまさらにきみゆかめやもひもときまけな
深の下氣の字を脱せしにやゆかめやもハゆかんや也まけハ字のまゝまうける也

まけんと也

右二首

久堅乃雨零日乎我門爾蓑笠不蒙而来有人哉誰
ひさかたのあめのふるひをわがかどにみのかさきずてきたるひとやたれ
後句定ちハけるひとやたれと例へしけるハさゝるのちぞとよりきゝえし
よまんぢかハまされると
纏向之痛足乃山爾雲居乍雨者雖零所沾乍烏来
まきむくのあなしのやまにくもゐつゝあめハふれどもぬれつゝぞこし
烏ハ焉の誤なるべし

右二首

羈旅發思

度會大河邊若歴木吾久在者妹戀鴨

わくらひのおやのいのべのわのくぬぎわがひさこまあれどいもこまるこの山

度會ハ伊勢、和名抄歴木久奴木、若を吾子とまねいてるべし、我久しく移るあれば妹の恋こうく

むかのさくらばのちくしはをとこまねいてるべし、我久しく移るあれば妹の恋こうく

吾妹子夢見来倭路度瀬別手向吾為

わぎもこをいめにみえこしやまとぢのわたりせごとにたむけわがする

櫻花開哉散及見誰此所見散行

櫻花開哉散及見誰此所見散行

さくらばなさきかもちるとみるまでにたれのもこそふみえてちりゆく

櫻の咲て散めくこうるくこちるくほどなく、新ちを起くくよりて

なるべし、波ちといふ、京ハ一くとさそちれどとそちるのやうなこさらのちく

豐州聞濱松心喪何妹相之始

豐州聞濱松心喪何妹相之始

とよくにのきくのくまつこころもなのふこのいもふあひくそんけむ

和名抄豐前企玖郡、文庫本喪と哀ハ之と云ふ、さて松ハ待の借字

みくこころもくこちのこのまにあひいたるあけんかれべ、されくいきくこの

極ちくぞ、弱心喪ハ不遠ちくの字の借くを以見の借ちるべ、きく

の借れくをのくずちちふいとあひうちちくんくれくんハ戻れを遠

ようるようちくく不遠とづけるういそれさ、宮ちハ心喪の字ハ借ふく、

ねとろみくるべき不くもちく、まちはを喪ハ喪の借ちるまちを哀誠也と

あれバ心喪を為てねとろとよ、べといふ

右四首柿本朝臣人麻呂歌集出

右四首柿本朝臣人麻呂歌集出

月易而君乎婆見登念鴨日毛不易為而戀之重

つきかへてきみをばみんとおもへかもひをへてこひのしげき

若くとハ、ちのべ、もく男の名を称ふくおるけ、まん月をゆ、まくんくと

ていふ、かるよ、ちくゆ

莫去跡.愛毛来哉常.顧爾.雖往不歸.道之長手矣

なゆきそしかりしくやとかつみるゆげどのらばみちのながてを

上ハ遠ク人改ル道ヲ反又ヒジルヤト紛人ノ見ヌ[illegible]

ど、文ヨ立ヲ[illegible]てとゞむる人ハ[illegible]て[illegible]のやく遠く求めゝと敬くゝ[illegible]

ハ敗ル[illegible]ハ十垣手[illegible]ハ垣道と[illegible]手[illegible]

ばゝハ[illegible]

去家而.妹乎念出.灼然.人之應知.歎.將為鴨

たびゆくゝ[illegible]ひとのたるべきなげきせんかも

[illegible]

里離.遠有莫國.草枕.旅登之思者.尚.戀来

さとはのゝとをのくにくさまくらたびとゝへばなほこひくる

[illegible]

万解十二下　二十

近有者.名耳毛聞而.名種目津.今夜從戀乃益益南

ちかければなのみもきゝてなぐさめつこよいゆこひのいやまさらん

[illegible]

容在而.戀者.辛苦.何時毛.京行而.君之目乎.將見

たびなるあれてこふれば[illegible]いつしかもみやこゆきてきみのめをこん

男の国の住る[illegible]

遠有者.光儀者不所見.如常.妹之.咲者.面影為而

とをのくれば[illegible]ものゝごといもがまゝしのはるのげをみて

年毛不歷.反来.嘗跡.朝影.雨.將待.妹之.面影.所見

[illegible]

遠き国へ行て男のよまるゝ事十一ヲ新ル[illegible]

ふるくそハ新のめくやとく[illegible]

ヨハ例ヲ[illegible]ハ異の説

玉梓之道爾出立別来之日後乎念忘時無

玉梓を持ちなる人は君の為

波之寸八師志賀在戀爾毛有之鴨君所遺而戀敷念者

はきやし志のるこひしもあるかもきみよりおくれてこひしくをもへは

[illegible]

草枕客之悲有苗爾妹乎相見而後将戀可聞

苗ハ代字なり[illegible]

[illegible]

國遠直不相夢谷吾爾所見社相日左右二

[illegible]

如是將戀物跡知者吾妹兒爾言問麻思乎今之悔毛

[illegible]

客ヲ容ニ誤紐ヲ級ニ誤

紐ヲ級ニ誤下同

吾之ハ吾子ノ誤

客夜之久成者左丹頬合紐開不離慰流比日

たびのよのひさしくなれば さふづらふ このごろ
きそづらふ 紐ハ未詳 ハ之の誤 ものをとらく まいぬ まろねて
きそをみづらいつる

吾妹兒之阿乎偲良志草枕旅之丸寢雨下紐解

わぎもこ あを しのらし くさまくら たびのまろねに あめしたひもとく
あとハ未詳 ちるの誤 ふるの誤

草枕旅之衣紐解所念鴨此年比者

くさまくら たびのころもの ひもとけぬ おもはるかもこの としごろは
もの誤 ふれを見 ふる ものを

草枕客之紐解家之妹志吾之待不得而嘆良霜

くさまくら たびのひもとく いへのいもし わをまちかねて なげのしらしも

釧ヲ釵ニ誤

玉釧巻寝志妹乎月毛不經置而八将越此山岫

たまくしろ まきねしいもを つきもへず おきてやこえん この やまのくき

玉くしろ 枕詞 釧を釵 ハ誤 巻 初く 一月 置 越 山 岫

岫山穴似袖之 和名久木 巻十四 武蔵郡乃乎具奇我吉蔓志たちかれとよ

ヤカ くきハ ヲの誤 ヲの誤 ヲ具奇 ガキバ 又岫ハ岬の誤 てさきれ

梓弓未者不知杼愛美君爾副而山道越来奴

あづさゆみ いまは しらねど うつくみ きみに たぐひて やまぢこえきぬ

梓弓 未 杼 愛美 君爾 副而 山道越来奴

国の俗 俗 ひなる 女の中のまて 物の ひとと 通て

まいりまうで

霞立春長日乎奥香無不知山道乎戀作可将来

かすみたつ はるのながひを おくかなし しらぬやまぢを こひてゆくらん

霞立 春長日乎 奥香無 不知山道乎 戀作 可将来

巻一雲立長春日手とかうて長春日とあるをとく注するもいと
うるはしかまとうぬとうて也將来へゆくのこと

外耳君乎相見而木綿牒手向乃山乎明日香越將去

よそのみきえみをあひみてゆづりえたむけのやまをあすのこえるん

ゆづりみ梅は牒字鏡簡也札布弥大、後漢書王符傳皆服文組絲牒注牒即今
畳布とそ仏ばそみと訓べしだの簡と古板竹らど韋ものあこいるるれば たむるも
るべし集中奈良のよゆと後あお坂のも同山をある中まこ八奈良のも同をいう、
奈良人のあまて吹る越んといふべちゝの東の女父の住は後てあこ紡むるに至て也
男をかめのこおりてえを分るもせて、遂る遠き分とこ人来を悲しめるるべ

玉勝間安倍島山之暮露爾旅宿得為也長此夜乎

たまかつまあべしまやまのゆふつゆるたびねえるやわすがきこのよを

むろよ相は尾張國風土記云中島郡安倍島山又仲哀紀限没利

島阿閉島為御苫と云ふ長門にるるべきこと 冠辞考よくはし
いづれの夕辺こそ君が御船とまるいね泊をとはんとすれど
とわづらえ得為也えせんやのこと 巻十一面長ぐこと得為也ヒクトと

よるべかな

三雪零越乃大山行過而何日可我里乎将見

みゆきふるこしのおやまゆきすぎていつれのひかわがさとをこうん

三八生こえ神名帳越前丹生郡大山御坂神社 和名抄越中婦負郡大
山佐保也方 こえゆこえはいづれのの住国より京へゆるくのこうん

乞吾駒早去欲亦打山将待妹乎去而速見年

いでわがこまはやくゆきこそまつちやまるつくんいもをゆまてはやくん

保るを古本こ此あと由支古世と古方と同じこと方世と古方と同じこと於こと
まつちやまは此伊の住より京へゆるくのこと

悪木山木末悉明日従者靡有社妹之當将見

あきやまこぬれことごとあすよりはなびきたりこそいものあたりみん

聖武の蘆城山は、尾張春部郡安食。近江犬上郡安食とりすべて考べし。なびき

たりこそハ靡てありこそなりく靡けりしと所訓く。よく妹が門みんなびけ

此山しよそるゞあし

鈴鹿河八十瀬渡而誰故加夜越爾将越妻毛不在君

すゞかがはやそせわたりてたがゆゑかよごえにこえんつまもあらなくに

伊勢鈴鹿郡也。此川即ち山河をあるきこうて築鹿し渡れバかくいへり

り。さうざうしくてもこではやまのこきをどうしてか猶するほどなるの

妻の身まかりしほどにてよそへるか

吾妹兒爾又毛相海之安河安寝毛不宿爾戀渡鴨

わぎもこにまたもあふみのやすのかはやすいもねずにこひわたるかも

妹がなこそ猶まさく又もあふやと云ふを聞ゆ。安河ハ近江野洲郡之この

忘わするゝもといへる川の傳はくなるか

客爾有而物念白浪乃邊毛奥毛依者無爾

たびにありてものをぞおもふしらなみのへにもおきにもよるとはなしに

旅にありて、その女を戀するは、未なりかしこんも出てくれぬ程の歌なるべし

湖轉爾満来塩能彌益二戀者雖剰不所忘鴨

みなとわにみちくるしほのいやましにこひはまされどわすらえぬかも

久しき旅なく妹を戀しきのけ増るといふ。上に廣し

奥浪邊浪之来依貞浦乃此左太過而後将戀鴨

おきつなみへなみのきよるさだのうらのこのさだすぎてのちこひんかも

巻十一相聞にもそうなといへり

在千方在名草目而行目友家有妹伊将欝悒

ありちぐ、ありちぐきあてゆのぐしいへるいもいぐのうみせるし
左の方にをるいるこ、そ〜趣おのあ〜ちみや、ぐいちぐさあてを約ともの
妹八坪ひいをを時ちてあ〜んとん、妹伊の伊八ひ作る胸鳴ん、巻三志
斐伊ハまをせ〜りつあるくそ〜

水咫衝石心盡而念鴨此間毛本名夢西所見

みをつく〜こころつくておもへもそ〜ふもえをるいるくふ〜みゆる
水の海さ石をみをを〜ん、そ水の海海を来る杭と陵まそてあ〜と
みをつく〜こ〜ふ、延喜式雑式、難波津頭海中立澪標ことをそん、
咫ハ海線を量ることをあてをるこ、そ〜をハ枕詞の、そ〜ハ掾居
をるををを〜ていつ

吾妹兒爾觸者無二荒磯回爾吾衣手者所沾可毋

わぎ〜こるふるをハちふおあてまてわのころめてハぬれふるかも

鳴よるをを〜ハを〜て、拾ふて荒磯ハ神ぬるを〜ら、巻九鳴よれ
なばしよすり

室之浦之湍門之崎有鳴島之磯越浪爾所沾可聞

むろのうらのせとのさきをるなるこ〜ふのいそ〜をちみをぬれをるがも
搗廣の宮をるべ〜せとハ法隆寺の名の迫門の崎をすちくを
四べ〜四川なをじまをよて、芳仲しそれをよつれどと人の氏ハ成名と
ふをを〜ハををるべくををるれバをバ〜くをを〜まををを

霍公鳥飛幡之浦爾敷浪之屢君乎將見因毛鴨

ほを〜ぎすとび〜のう〜ふ〜ををるみの志ハ〜きみををんよもがも
ひ〜をを枕詞、筑前風土記塢舸小門の海ハ鳥嶺よりを、そ〜ハ、ハ序へ

吾妹兒乎外耳哉將見越懈乃子難懈乃島楢名君

わぎ〜こをよをのをやみむ〜のうみのこぐ〜のうみのをまをを〜をを

懈ハ倦るれば怠り、又ハ懈の字、巻十六に懈怠乃海とよめり、
けはとよりて月日のかゝるかゝ妹をとよめるみなんやとゝもん

浪間従雲位爾見流栗島之不相物故吾爾所依兒等

なみまよりくもゐにみゆるあはしまのあはずものゆゑわがよりてるこら

雲居ニ見ル、あはずものゆゑハふる郷ゆゑとよりてるハ人のいひもるゝ、
こゝにて板の名をいふべきあんしのちしてあやしきこゝろて板なる
板なるゝて、たゝ板なるまゝきゝあれば、こゝ云へるやとハ序のゝ
元暦本日の上祈のまゝ

衣袖之真若之浦之憂子地間無時無吾戀鑁

こゝろもてのまわのうゝのまなごちのまゝくとさまゝわのうゝらくゝも
衣の袖ハ、こゝろのまゝにほゝるゝゝ化仏のわゝの海へ変るハ借字
こゝ云袖浦ゝ上ハ序のゝたるいつるゝ板の名なるゝ、和名抄云鑿ミヽ和名久波

万解十二下　ウ六

鈎ヲ鉤ニ誤

泊ヲ附ニ誤

一名鑊、説文云鑊ミヽ和名上同大鋤也、字鏡久波とあれば くはの訓る借ら

能登海爾鈎為海部之射去火之光爾伊往月待香光

のとのうみにつりするあまのいざりびのいるるにいゆくつきまちがてら

任ゆゝの伊ハ疑詞

思香乃白水郎乃鈎為燭有射去火之髪髴妹乎将見因毛

欲得

おもかのあまのつりとてせるいざりびのほのかにみんよりもがも

おもの八雲抄、よりて也、若ハ爾の借あ、上ハ序のゝ

難波方水手出船之遥遥別来禮杼忘金津毛

なゝふかたゝこぎでゝふねのはるゝゝわれきぬれどわすれうねつゝ

巻五波漏ゝ〻ゝ和ゝ、妹とよりて

浦回榜能野舟泊目頻志久懸不思月毛日毛無

うらまくぞよのふねぞめづらしくかくておもはぬときさへひもなし

能ハ熊の畫の失ふるならんべしと契沖いへり神代紀熊野諸手船、また八尋ル真熊野の船とよまれたればくまのぶねなるべし、紀伊の熊野之附古南ニ泊ることよしとぞ、舟附ハ雅言をあらはして、爲ハ目頬志久とめづらしくとよみてめづらしくハ見まほしくする間、かゝくハつようけて之濱へ大船のよせくる時ハ人ごとに見まほしと立走つゝおのづから物ふるをみて鮮へうつといひきたれども、かゞりといつる例おもしろくぞ、されバ物深川ニ立ちうらく、めづらしくよかりし、末のことハおのが書こそこゝにめづらしとあるが如く変る頃かと、見まほしきでしと思てんぞ、水ハ熊野舟のたまるたびごとるかりまれふ涌さるるをめづらしと見るとぞ望しくせるゝ、されど猶おぼやつかしきぞ、

二の句語字あるべし

松浦舟、亂穿江之水尾早檝取間無所念鴨

まつらぶねさわぐほりえのみをはやみかぢとるまなくおもほゆるかも

乱をさわぐ別るハよろし例之、穿江ハ雅波堀江之、松浦舟ハ筑紫の松浦の舟之、上ハあるをといふん料にまうけたり

射去為海部之檝音湯鞍干妹心乘来鴨

いざるとてるあまのかぢおとゆくらかにいものこゝろにのりにけるかも

ゆくらかハ集中ニ、舟のゆくらゆくらとよめる如く、給舟のかぢをゆるくと漕音をいふ、序とせり、其ハ是ぶ招のおとそこみえ妹がゝつ妄みたるかてといへる類之、干ハ音を前かくかよの詞ニ用ひたり

若乃浦爾袖左倍沾而忘貝拾跡妹者不所忘爾

わかのうらにそでさへぬれてわすれがひひろへどいもはわすらえなくに

法る印かそばの袂のぬるゝハあまて貝拾ふとてぬらせバ信といふなり

或本歌末句云忘可禰都毋
草枕羈西居者苅薦之擾妹爾不戀日者無
くさまくらたびのそれがかりごものみだれていとに恋ひぬひにけり
くさまくらかりごもの枕詞
然海部之礒爾苅干名告藻之名者告手師牟如何相難寸
さのあまのいそかりほしたなのりそのなはのりてをいかであひがたき
上ハ序ニ名をとなのりそなのりそハかくハるまこと、なぞ名ノりその歌
ことにとなのりそのなとよるもみのえのさきうの海のるのりそのなハのり
てをあるもあやし
國遠見念勿和備曾風之共雲之行如言者將通
くにとをみおもひなわびそかぜのむくこゝろのゆくごとハかよはん
国きとをとひわびるなかれ風たるこゝの心をあくこゝろ信せんとも

留西人乎念爾蜻野居白雲止時無
とまりにひとをおもふあきつのゝのゐる白くもゝのやむときもなし
去年のあきつ野にあるべし、あるよ五妻とおもふく
悲別歌
浦毛無去之君故朝旦本名鳥戀相跡者無杼
うらもなくいなきみゆゑあさあさにもとなこふるあてとハなけど
行ゝくいなきるあをとゝのみをてゝ行くさるハ思ゝとゝいつよ
同じ、来白ハ立てゝあつよ、ハなれどゝ山ゝ空ゝ杼ハ荷の話ゝて、
あつとハちゝみるべゝといつよ、さるべし、多ハ多の話ゝ
白細之君之下紐五吾左倍爾今日結而名將相日之為
しろたへのきみのしたひもわれさへにけふむすびてなあひんひのため
七夕ノ歌ハ略ス　四の下伊を七夕ハ略ス

おびみそくは、あくんひるいそひく解くんあらせんと云、おそるゝは然らんと

白妙之袖之別者雖惜思亂而赦鶴鴨

しろたへのそでのわかれはをしけれどおもひみだれてゆるしつるかも

お須くる袖と袖のわかれをりは、まへは思乱つゝも赦しゝなるをとはまし

て、おわれゆのしむるとな

京師邊君者去之乎孰解可言紐緒乃結手懈毛

みやこべにきみはいにしをたれとけかいふひものをのゆひてたゆしも

とけるはとけぶるのばを思ふるなり、下紐のおのれととくるは、人にあふべききざしといふ

ことは、みやこにまつべき人は遠く都へ行しものを、誰とけよとかは、ひもはたゆれ

もちて下紐のゆるみて、たゆきまゝとかくんとそ

草枕客去君乎人目多袖不振為而安萬田悔毛

くさまくらたびゆくきみをひとめおほみそでふらずしてあまたくやしも

白銅鏡手二取持而見常不足君爾所贈而生跡文無

まそかゞみてにとりもちてみれどあかぬきみにおくれていけりともなし

一二の句は見あかぬといふ序のみ、跡は借字なり、後の字とく

隱夜之田時毛不知山越而往座君乎者何時将待

くもよのたどきもしらぬやまこえていますきみをばいつとかまたむ

くもりよの枕詞、末子句やみの夜のけさきもしらぬといへり

田立名付青垣山之隅者數君乎言不問可聞

たゝなづくあをかきやましへだゝればしばしばきみをこととはぬかも

たゝなづく枕詞、おほくの山をへだてゝは、度々使しくこともえよまぬ

ぎんと女の歌なり

朝霞蒙山乎越而去者吾波将戀奈至于相日

あさがすみたなびくやまをこえていなばわれはこひんなあはんひまでに

趾ヲ跡ニ誤

足檜乃山者百重雖隱妹者不忘直相左右二

あしびきのやまはもゝへにかくすともいもはわすれじたゞにあふまでに

一云雖隱君乎思苦止時毛無

山は幾重に隔てゝ隠すとも妹をば忘れじとなり

一本は女の歌として、丈の旅行しをを山の隔つるをいふとなる

雲居有海山越而伊往名者吾者將戀名後者相宿友

くもゐなるうみやまこえていゆきなばあれはこひんなのちはあひぬとも

遠くは山とこえて行く妹を思ひてなはれ恋しかるべきとなり、後は逢ふとも

とをいふ、宿は借字のみ

不欲惠八趾不戀登爲杼木綿間山越去之公之所念良國

よしゑやしこひじとすれどゆふまやまこえにしきみがおもほゆらくに

趾をば本跡に作れり、一本には改め又一本は所にあり、本集にしは巻十四

東歌、巻十四にも遊布麻夜萬かくれしきみをおもひかねつもと

あるを見てゆふま山なるべし、ゆふまは其の國の名なるべし、其の

山を越行し君を思ひかねつ、されば其の國の中にある

なるべし、ゆふまは名をと云べきを、かくいふは例也

草陰之荒藺之崎乃笠島乎見乍可君之山道越良無

くさかげのあらゐのさきのかさしまをみつゝかきみがやまぢこゆらん

巻十四東歌に久佐可氣乃安努（アヌ）とあるによりて、此歌も草蔭の

草蔭阿野（アヌ）国とあり、草蔭は阿の一字へかゝる枕詞にて、武藏樒樹の

らゐと云地にて入江をなしてあやしきをいはんとすると云

不には今も考へし

一云三坂越良牟 三は眞也

王勝間島熊山之夕晩獨可君之山道將越

たまかつま・まくまやまのゆづれはひとりこきみがやまぢこゆらん

むらつま・松・海・なくこゑ・山・知・ぐ・こ・し・、・おほの・ぐ・き・と・見・ば・そ・き・ち・の

一云暮霧雨長恋為乍寝不勝可毋

長恋ハ来之・於久礼為・天那・我古・磯世・殊・波・し・こ・ち・み・く・ま・く・ち・る

そこ・ゆ・霧の・ふ・き・山・海・を・ま・く・ま・ね・し・て・た・て・ま・ひ・て・ね・る・る・こ・ち

氣緒雨五日忘君者鶏鳴東方坂乎今日可越覧

いきのをあわづらふきみ・ひ・と・ち・ご・と・に・ま・ち・ば・と・ち・ご・ま・ち・ば・こ・ゆ・ん

あづまの坂・大・名・の・東・ま・ち・ま・ち・と・き・こ・ち・ん・ち・ま・ち・ち・ん・ち・ま・ち・ち・ん・ち・ま・ち

咲くとらん、あぢーまハあくとをねいくんゐるいひ出てう

明日従者、将行乃河之、出去者、留吾者、戀乍也将有

あすよりハいなるみのかたのいでいるがとまれるれハこひつゝやあらん

構度の印南おとの川ちるべしいるがとでけいくんゐるいひ出てう、

将行ハいなんとよまるゝをゝくいなみのゝよ侍るゝ

海之底、奥者恐磯回従、水手運往為、月者雖経過

わたのそこおきハかしこいそまよりこぎたみいませつきハへぬとも

わたのそこ枕詞、仲ハ波うこれハ磯をこぎまわるゝをせく月ハ月

次の日こ

飼飯乃浦爾、依流白浪、敷布二、妹之容儀者、所念香毛

けひのうらふよする白なみしきのゝ妹がすがたハおもひかゆるかも

けひのゝ越ハ敦賀、越の国へ行てちの浦とよまゝ

時風、吹飯乃濱爾、出居乍、贖命者、妹之為社

ときつのせふけひのはまにいでゐつゝあがいのちハいもがゝためこそ

ときつのせ枕詞、ときつの浦紀伊にあるべし大海の後とゝ時よみて侍るべ

のぬしへ給はるべし、後ハ罪の軽重をおもひて贖物と出て行ふ事

あがのよこいつゝ、罪と後ハれ侍れ、もものるべきことゝ

桑田津爾、舟乗将為跡、聞之苗、如何毛君之、所見不来将有

にぎたづに舟のせんときゝしなへちゝでもきみのみえこざるらん

にぎたづ枕詞、をゝ舟乗して沖へ出る時

まんとゝ思ひとのでゝ乗て出ぬるをいでのやくとよまゝ

三沙呉居、潜爾居舟之、榜出去者、裏戀監後者、會宿友

みさごゐるとぶるゝ舟のこぎでゝ出ぬるとこひ人のちハあひぬも

呉ハ呉居ハ呉ハ海ハ海ハ海

[illegible]

玉葛無急行核山菅乃思亂而戀乍将待

たまかづらたえずゆのさねやますげのおもいみだれてこひつまるん

むらづら核河ゆゆさねハゆけを迄てるらん、たえずゆけとハ浮る

[illegible]

後居而戀乍不有者田籠之浦乃海部有申尾珠藻苅苅

おくれゐてこひつゝあらずハたごのうらのあまなるまをたまもかるかる

[illegible]十一中ゝ[illegible]ハ枕浦のあまなるまをたまもかるかる

[illegible]

[illegible]

田籠の浦を[illegible]

筑紫道之荒磯乃玉藻苅鴨君久待不来

つくしぢのあらそのたまもかるかもきみをしぞまつきこやぬ

[illegible]

荒玉乃年緒永照月不厭君八明日別南

あらたまのとしのをながてるつきのあかぬきみハあすわかれなん

[illegible]

久将在君念爾久堅乃清月夜毛闇夜耳見

ひさしあらんきみを思ひるひさかたのきよきつきよもやみのよもみゆ

[illegible]

春日在三笠乃山爾居雲乎出見毎君予之曽念

かすがなるみかさのやまにゐるくもをいでみるごとにきみをぞおもふ

遠き猪名野しら波とおもふ
足檜木乃庁山雉立往年君爾後而打四鶏目八方
あしびきのかくやまきでしたちゆのんきみをおくれてうつけめやも
一二のるハ立ていくん序ゝ光十ハむさゝぬのとぐさぶきげ一立るれ
そよあゆうつたあやゝハ現のるとちくちぐるこんめくるゝん
ゝ
問答歌
玉緒乃徒心哉八十梶懸水手出年船爾後而将居
たまをのうつこゝろやそかけこぎでんふねをおくれてをらん
むの船の梶やそかハやそかちの男ゝく、うゝ知夫の今ゝ毎ゝ手列
ゝをゝん時ハ現のゝそハをゝうゝ、ゝをゝうゝんゝゝ
のゝこゝ

誤字活字

雨下之衍字

八十梶懸島隠去者吾妹兒之留登将振袖不所見可聞
やそのけ島かくれゝ者わぎもこのとゝまれとふらんそでもみえぬか
毎の沖の島かくれいるぶゝりく光ゝうゝぶゝの中行毎ゝかれゝこの
ゝれゝうゝくんまゝゝゝゝゝゝゝよゝゝ
右二首
十月鍾禮乃雨丹沾乍哉君之行疑宿可借疑
かゝるづゝ濡ぐれのあめにぬれてやきみがゆくらんやどのかるらん
第れるあゝ留の道のほゝのるゝとゝゝ
十月雨之間毛不置零雨西者誰里之間宿可借益
かゝるなづゝあまゝしおゝゝふゝふせゝだゝゝゝのまゝやどのかゝまゝ
雨の下之字宜在衍字衍文ゝふゝふせゝ雨ハ降ゝふせゝのゝ旅里の間
ハいゝのほゝふゝいゝゝゝ

右二首

白妙乃袖之別乎難見為而荒津之濱屋取為鴨

さらさらのそでのわかれをかなしみてあらつのたまれやどりをするかも

岩ナミカンさぶるあられ和のをさふらもるみしまハ彩羅への使人筑紫
館ニ至るより陽明くに三の子を弟るる。三代実録第十六筑前國
那河郡荒津ノ大神先年津ノ地を結ぼのこのたるべし

草枕羈行君乎荒津左右送来飽不足社

くさまくらたびゆくきみをあらつまでおくりきぬれどあきたらずこそ

まハこそ旅人と略する例も太宰の官人或ハ国司の妻人なるハ
遊女の船津まで送るまくよめるなるべし

右二首

荒津海五品幣奉将齋早還座面變不為

あらつのうみわのぬさまつりいそしてんをやのこのまもなかりせば

先ハ筑紫人の京ニ仕奉るまして上るをもちろん面変不為とハ年
ほどをさよりもれバ国の役の朝集使をもてかりふるふるあり

早早筑紫乃方乎出見乍哭耳吾泣痛毛為便無三

あさなさなつくしのかたをいでみつつねのみわがなくいたもすべなみ

そいとる道まくよみく旅人ハ船ちんの方をたづねて
発しふハあるべ。あるれさるハ早くとれるべ。れど旦旦の変の涙
ちゃん

右二首

豊國乃聞之長濱去晩日之昏去者妹食序念

とよくにのきくのながはまゆさくくるのれぬれバいもをぞ思ふ

そし筑紫人のあるべ

左ヲ在二誤

豐國能聞乃高濱高高二君待夜等者左夜深来

とよくにのきくのたかはまたかたかにきみまつよるはさよふけにけり

るしハ遠ヲ望ムる事なるべしいまハ是又四方ともあらぬ

右二首

萬葉集卷第十二

万解十二下終三十六

010190519258